



学芸員コラム

おうちでつくろう！海藻標本

普段食べている海藻が、どんな形の生き物か知っていますか？ スーパーで売られている海藻を、標本にして形や色を見てみましょう。

道具は、画用紙、竹串、白い器、新聞紙、不織布（三角コーナーのごみ袋等）を用意しましょう。おすすめの材料は、海苔ともずく。海苔は、原材料に「干しのり」「乾のり」などと書いてあるものがおすすめです。紙状のすき海苔でもいいのですが、「ばらのり」「岩のり」など塊状の方が、標本にしたときに本来の海苔の形がわかりやすいでしょう。

海苔を例に作り方を説明します。まずは、白い器に海苔を入れて、水でもどします。数分して水の中で広がった海苔の下に、画用紙をすべり込ませます。海苔を竹串で押さえながら、画用紙と一緒に水から引き上げます。紙の上ののった海苔を竹串でつついて、重なったり折れ曲がったりしたところを広げて整えます。形が決まったら、水をよく切って、不織布をかぶせた後、新聞紙に挟みます。上に辞書などの重しをのせて、乾いたら完成です。

海苔は、アマノリの仲間です。分類は難しいですが、地域によって材料とされるアマノリの種類は様々です。アマノリの仲間は本来、赤い色素をもつ海藻で、水でもどすと真っ黒ではないことがわかります。一方、焼き海苔では焼いたことにより赤い色素が壊れて緑色になっています。また、抄き海苔は作る工程で刻んでいるので、細切れになっています。その違いを比べてみるのもおもしろいでしょう。

もずくを使う場合は、カップ入りのもずく酢でも十分です。水に入れて画用紙にのせましょう。一般的なのは、沖縄県で養殖されているオキナワモズクですが、「岩もずく」「細もずく」などの名称で売られているモズクもあります。

海藻サラダを材料にするのもいいでしょう。「赤〇〇」「青〇〇」と名前があり、形がそっくりな海藻が入っている場合があります。これは、熱処理などで色を変えているだけで、実は同じ海藻な

んです。

標本をつくり終わって残ったノリは、ざるで水を切り、醤油をつけてお刺身にして食べてしましましょう。食感の違いも楽しめます！



スーパーで買ってきた海藻



水でもどすと本来の色が見えてきます。左上は抄き海苔、右下は青さのり、他は黒のりやばらのりです。



できあがった海藻標本
(各地の海苔、青のり、海藻サラダのつものまた、もずくなど)

(研究交流部 三瓶ゆりか)